

最近の治安情勢と対策

平成23年7月12日
在ジュネーブ出張駐在官事務所

1. 最近の邦人被害の例

(1) 強盗

ジュネーブ中央駅から徒歩で移動し、ホテル入口の鍵を解錠していたところ、いきなり背後から2人組の黒人に押し倒され、手提げバックを強奪された。

(2) 空き巣

- ・ 自宅（一戸建て）の玄関ドアをバール様のものでこじ開けて侵入。
- ・ 自宅（集合住宅の6階）木製玄関ドアの補助錠をドライバー様のもので破壊し侵入。
- ・ 自宅（集合住宅の2階）のベランダ側ドアより侵入。（ベランダ側に組まれていた外装工事の足場からベランダに容易に侵入可能な状態であった）

(3) スリ

- ・ ジュネーブ中央駅付近で、「上着に何か付いてますよ」と声をかけられ注意をそらされた際に、背広内ポケットから旅券を盗まれた。

(4) 置き引き

- ・ 屋外テラス席で会食中、テーブル下に置いていた手提げバックを盗まれそうになった。（犯人は、背後の柵から手を伸ばして盗もうとしていた。）

2. 犯罪発生状況～急増する侵入盗被害

- ジュネーブ州における侵入盗の被害は、2008年から爆発的に被害件数が増加、その後も被害発生件数が増え続けており深刻な状態。

※ 本年3月、被害件数が史上初めて、1か月に1000件を超えた。

※ 本年1月～4月までの侵入盗被害発生件数 → 3,335件

※ 本年4月～1日平均約24件の侵入盗被害が発生

○ スリ

- ・ 毎月、約500件発生（主に公共交通機関、商店街、空港等で多発）
- ・ スリが多発しているトラム、バス路線～トラム12番及び16番、バス3番
- ・ スリが多発する時間帯～月曜から金曜の15時から18時
- ・ 犯人～ラテンアメリカ系、東欧系が多い

○ ひったくり

毎月、約80件発生

3. 当地州警察の対応 ~各国外交団からも州警察に治安強化を申し入れ

- ・ 警察官の増員（2012年：200名増員予定）
- ・ ジュネーブ州警察，フランス警察及び国境警備隊が連携した薬物取締りの強化
- ・ 犯罪現場からのDNA採取強化
- ・ 専従捜査班の再編成及び強化

4. 予防方策

(1) 侵入盗（空き巣）対策

- ・ 警報機を設置する，玄関ドアに門（かんぬき）を取り付ける，窓に柵を取り付ける等の防犯設備を強化し，犯人の侵入を少しでも妨げる工夫を行う。
（別添写真参照）
- ・ 玄関等の施錠を確実に行う。
- ・ 多額の現金，貴重品を自宅に保管しない。（保管場所に注意する。）
- ・ ベランダ側ドアのみならず，浴室等の小窓についても必ず施錠をし，換気についても在宅中に実施する。

(2) スリ対策

- ・ バッグは肩にたすきに掛け，常に体の前方で自分の視界に入る位置に保持し，話しかけられた際には抱きかかえるようにして防護する。
- ・ バッグの蓋やファスナーを確実に閉める。
- ・ ズボンの後ろポケットに財布を入れない。
- ・ 背広の内ポケット等に財布を入れる場合，ボタンを確実に閉める。

(3) その他，一般的防犯対策

- ・ 常に周囲の状況に気を配り，不審者と思ったら，人通りの少ない方向に進むのを避け，携帯電話でどこかに連絡しているようなふりをする。（犯人側に，自分が警戒していることを示す。）
- ・ 見知らぬ人に話しかけられても相手にせず，立ち止まることなく歩き続ける。
- ・ 危険を感じた場合には，日本語でもいいので大声を出し，周囲に知らせる。
- ・ 人通りが少なくなる深夜の外出は必要不可欠な場合を除き極力控える。特に犯罪多発地域（パキ，コルナヴァン，オーヴィーヴ，リーヴ）への深夜の外出は控える。

(了)

(ご参考)

ジュネーブにおける防犯対策

1 空き巣対策

- (1) 在宅している時でも住居のドアロックを確実にする(ガーデニング中, 昼寝中, 夜間)。人が居ない部屋の窓は鍵を掛ける。
- (2) 知らない者を家に入れない(セールスマン, 予定のない配管工等)。身分証明証を確認する。
- (3) 警報装置を設置し, 外出時には必ずアラームを掛ける。警報装置だけでは空き巣を完全に防ぐことはできないが, 空き巣を思いとどまらせる一助になる。
- (4) バカンス等で長期間自宅を不在にする際には, 照明が夜間自動的に点灯するようタイマーを設置して不在を悟られないようにする。
- (5) 近所の知人に依頼して, 不在時に自宅前道路に車を駐車してもらう。
- (6) 自宅の留守番電話に不在にする旨のメッセージを残さない。
- (7) 重要な書類等は銀行の金庫に預ける。
- (8) 貴重品やクレジットカードの番号のリストを作成しておく。
空き巣に入られた時, 盗まれた物を確認しやすくなり, クレジットカードの利用停止作業も容易になる。

2 車に乗っているとき

- (1) 運転中もドアロックをする。
- (2) 可能な限り窓を開けない, 開ける場合でも手が入らない程度に留める(停車中にバッグ等をひったくられる可能性がある)。
- (3) 駐車中は, 外部から見える位置に何も置かない(服, 携帯電話, GPS, ハンドバッグ等)。
- (4) 可能な限り, セキュリティーレベルの高い駐車場または歩行者等の往来が多いエリアを選んで駐車する。
- (5) 周囲の状況に常に気を配る。
- (6) 巧妙な手口を用いる犯人の策略に陥らないよう注意する(タイヤパンク作戦, 荷物積み込み時等)。
- (7) ヒッチハイカーは乗せない。
- (8) 無用なトラブルを避けるため, 落ち着いた運転を心掛け, 無謀運転している他車に対しては相手にしない。

3 ハンドバッグ

- (1) 可能であれば、バッグは肩からたすきに掛け、体の前方かつ常に視界に入る位置で保持する。
- (2) リュックサックは、人混みの中でナイフやカッター等で開けられてしまう可能性がある。
- (3) ハンドバッグ内に貴重品を入れて持ち歩かない。
- (4) バッグを常に身体から離さない。
- (5) バッグをショッピングカートの上に置いたり、レストランで椅子の背もたれに掛けることは避ける。

4 町中で

- (1) 財布や身分証明書などをズボンの後ろポケットに入れない。
- (2) 大金を持ち歩くことを避け、必要な金額のみ所持する。
- (3) ATM機の周辺では常に周囲を警戒し、暗証番号を盗み見られないよう注意し、ATM機前でお金を数えない。
- (4) レジで支払いをする際には周囲を警戒し、財布は手から離さない。
- (5) 人混みの中では特に周囲を警戒する（スリ等）。
- (6) レストランで財布の入ったコートを椅子の背もたれに掛けない。
- (7) クレジットカード等で支払う際には、スキミングされないように常にカードを視界に入れておく。

5 ひったくり、路上強盗対策

- (1) 夜間外出時は、複数で出歩くようにし、単独での外出は避ける。
- (2) 明るい道を選び、道に迷った場合でも、きょろきょろしたりせず、明確な目的地に向かっている様に装い毅然として歩く。
- (3) 多くの物を持ち歩かない。常に片手は自由にしておく。
- (4) 誰かに後を付けられていると感じたら、警察に連絡し助けを求める。
- (5) 酔っばらいの多い地区、安全でない地区を避ける。特に女性単独の場合は以下の場所に注意する。

ア 駅

イ 人通りの少ない公共駐車場

ウ 暗い通り

エ 犯罪多発地域

オ 地下駐車場

- (6) ナイトクラブ等では自分の飲み物のグラスから目を離さない（睡眠薬等を混入される可能性がある）。

6 最悪の事態にどう対処するか

- (1) もし、危機にさらされたら？

- ア どんな状況下でもまずは落ち着く。
- イ 警察等に電話する（117 / 112）。
- ウ 負傷した場合には、直接医師又は病院の救急室へ行く。

- (2) もし、空き巣に入られたら？

- ア 犯人が室内に居るかも知れないので、中に入らない。
- イ 直ちに警察に電話して、警察が到着するまでは何も触らない（指紋、足跡、DNA等を採取するため）。

7 緊急時連絡先

<スイス国内>

- (1) 1 1 2 緊急事態対応総合電話（ヨーロッパ全域でのあらゆる緊急事態に対応）
- (2) 1 1 7 警察
- (3) 1 1 8 消防
- (4) 1 4 3 悩み事相談（La main tendue）
- (5) 1 4 4 子供と若者のダイヤル
- (6) 1 5 5 毒物関係緊急事態（薬物、有毒物質など）

※ 各機関は相互に連携

<フランス>

- (1) 1 5 SAMU（緊急医療支援サービス）
- (2) 1 7 警察
- (3) 1 8 消防

※ 各機関は相互に連携

8 緊急時連絡先に電話する際の留意事項及び報告事項

(1) 留意事項

- ア まずは落ち着くこと
- イ 簡潔、明瞭に状況を説明する
- ウ あわてて電話を切らずにオペレーターの指示と助言に従う

(2) 報告事項

- ア 氏名、電話番号
- イ 緊急事態発生場所のできるだけ正確な位置
- ウ 事案の要旨（災害か、事故か、事件か）
- エ 考え得る今後の危険性（火災、爆発、建物崩壊など）
- オ 被害者（負傷者）の人数、症状、負傷程度
- カ 被害者（負傷者）にどんな応急処置を施したか

9 便利なサイト

(1) ジュネーブ州警察ホームページ

<http://www.ge.ch/police/communiques/>

(2) スイス連邦警察ホームページ

<http://www.fedpol.admin.ch/content/fedpol/en/home/themen/kriminalitaet/cybercrime.html>

(3) スпамメール対策等

<http://www.hoax-slayer.com/>

図1



図2

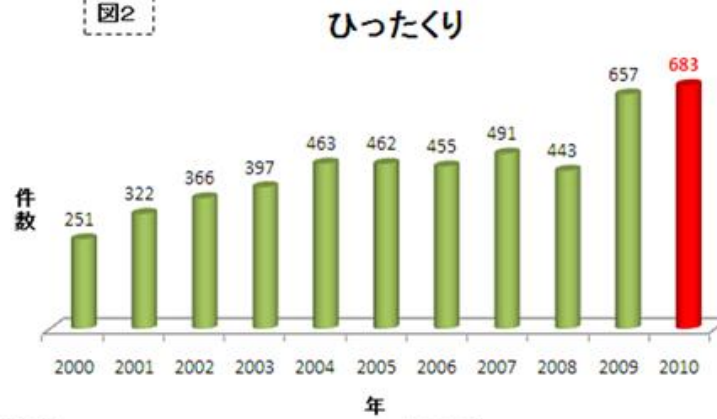


図3

人口1000人あたりの犯罪被害率

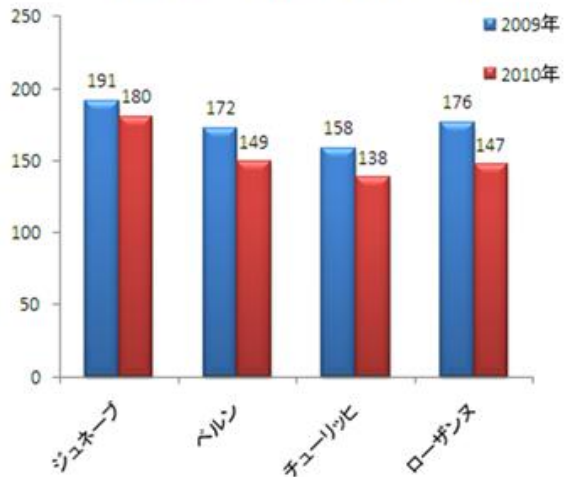


図4

刑法犯検挙率(2009年)

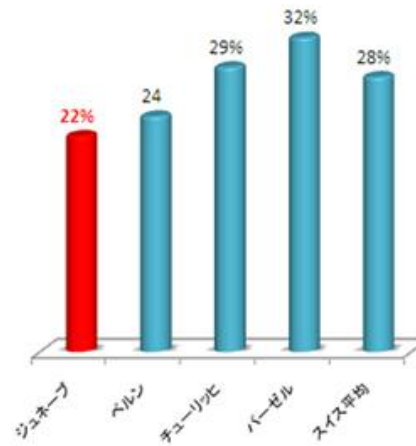


図5

警察官一人当たりの人口負担率

